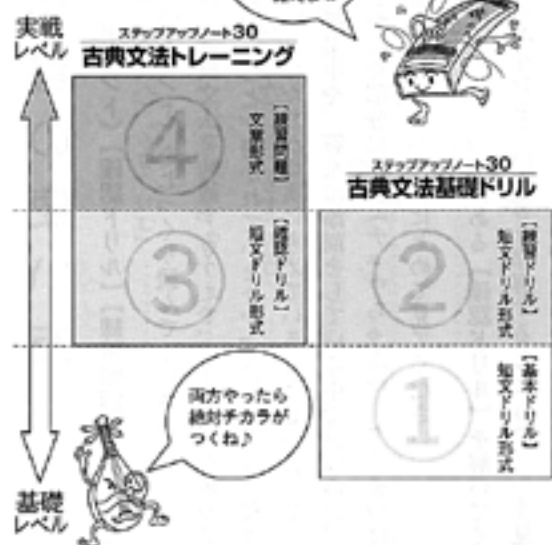


はじめに

こんにちは。「河合塾文・トレライターズ」です。

『ステップアップノート30 古典文法基礎ドリル』が刊行されて12年、私たちのところには、日々、いろいろなご意見が寄せられてくるようになりました。その中で、「一番多くいただいたご意見が、『基礎ドリル』が終わった後、次は何をやればいいのか? というものでした。『文法はできるよになつたけど、なかなか点数がとれないよ』というご意見もあります。文法力がついても、文章に慣れていないために、文法から内容把握へ、知識がつかっていかないのです。

そこで私たちは、みなさんに「文法が理解できる→文章の内容がわかる→設問に正しく答えられる→点数が取れる」と、文字通りステップアップしていただけるように、『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』(「文トレ」)と呼んでねと、を作りました。まずは次の図表を見て下さい。



上の図表からもわかるとおり、『文トレ』の「確認ドリル」(図表③)は、『基礎ドリル』の「練習ドリル」(図表②)とだいたい同じレベルです。けっして難解ではありませんが、初歩的というわけでもありません。古典文法を少し学習した人ならなんとか解けるレベルであり、そのまま入試に出題されてもおかしくない程度の、短い例文を使った文法ドリルです。

『文トレ』の「練習問題」は、実際に文章の中に現れた文法を使って解く問題です。文法がわかれば簡単に答えられる「解釈問題」や「説明問題」とか、逆に、カタチだけでなく内容も考えなくては答えが出せない「文法問題」とか、文法力に加えて、もうひとひねりパワーを必要とする、まさに入試レベルの古文読解への橋渡しといえるものです。

各講の「テーマ」と「文法ポイント」は、『基礎ドリル』とは同じにしました。ここを連動させることによって、さまざまな使い方が可能になります。たとえば、『文トレ』を③→④→③→④の順に一番仕上げる、という通常の方法のほか、

I 二冊の各講ごとに①→②→③→④と丁寧に練習していくことによつて、文法力と読解力を着実に身につけていく方法。

II 二冊の各講ごとに、まずは①→②→④→①→②→④とひととおり解いて、しばらく時間を置いてから、復習として③だけをまとめてやる方法。などです。そのため、①→④を通じて同じ例文を用いることは極力避けていきます。また、③→④でわかりにくいところについて、①→②の問題に戻って、初心に帰って復習するのにも、同じ講立てでは役に立つと思います。

これらを繰り返して練習することで、自然と読解力が身につけてきます。この一冊を解き終えたみなさんは、自信を持って、次の実践的な問題集(中堅私大古文演習・得点奪取古文)や、実際の入試問題(センター試験過去問レビュー)などにステップアップしていけるはずですよ。

この『文トレ』が、みなさんの志望校合格にむけての手助けとなり、実力アップの輪役になれることを、心から願っています。

本書の使い方

本書は、「ポイント」「確認ドリル」「練習問題」から成っています。

① まず、「ポイント」をじっくり読んでください。

ここには、古典文法を勉強するうえで、どうしても知っておかなければならないことが書かれています。「とにかくこれだけは理解してほしい」と私たちが切実に考えていることしか書いてありません。また、授業中や、答案の添削をしている中で気づいた、受験生のつまづきがちな部分に、^② (チュウちゃんマーク) をつけて注意しておきました。ちょっと気にとめて見てください。

② 次に「ポイント」の下にある「確認ドリル」を解いてください。

これは、「ポイント」の内容を理解するとともに、いま見た「ポイント」からどのような文法問題が作られるのかを体験するためのものです。たとえ正解できなくても、解答冊子にある解説と例文の訳を読んで、十分に納得してください。それが次の文章題を解く足がかりとなります。

③ そして、次のページにある「練習問題」に進みます。

ここでは、文章の中で使われる文法を理解し、それが設問にどのように関連してくるのかを考えて、正しい答えを導き出す練習をします。そのためにはまず文章を丁寧に読む習慣をつけましょう。解いていく手順は次のとおりです。

(1) 本文全体を、一語一語意識しながらアタマの中で訳す。

(2) 設問を読み、問われている内容をしっかり理解する。

(3) 本文の傍線部、もしくは傍線部を含む前後の部分までを品詞分解し、逐語訳し、文法的にも内容的にも、傍線部を理解する。

(4) 客観型の設問では、選択肢を吟味し、傍線部と照合する。

④ 最後は答え合わせです。

解答冊子を見ながら、答え合わせをして下さい。解答冊子は、問題を再録し、本文の横に訳を施すことによって、それだけでも復習できるようなっています。まちがったところは、下段の解説を読み、自分が何を間違えたのかを、把握しておきましょう。そして必ず、本編の「ポイント」に立ち返って、定着していなかった知識を確認しましょう。

一度目のチャレンジでどのくらいできたのかを、各講のタイトルの下にある「お月様マーク」にチェックしておきましょう。

簡単にできた

↓

なんとかできた

↓

ほとんどギブアップ

↓

自分でつけたチェックにしたがって、二度目のやり方を考えましょう。

● なら、「ポイント」と「練習問題」をさっと見直すだけでOK。

○ なら、「練習問題」の訳をじっくり読んでから再度解き直す。

○ なら、まずは「確認ドリル」を完璧にする。

※ 設問の復習とは別に、文章に慣れるためには、全文の訳を書いてみるのが一番有効な方法です。特別にあれこれ補う必要はなく、まずは本文を現代語に置き換えるところから始めましょう。解答冊子の訳と比較して、特に見落としした文法ポイントがないかどうか、確認してみるとよいでしょう。

18 助動詞(十二)「まし」「まほし」「まほし」

- 〈反実仮想〉の文の接続を変える。
 ○ 「まし」は〈反実仮想〉でなければ「ためらいを含む意志」と見える。
 ○ 「まほし」は「〜たい」という〈希望〉の意味しかない。

〔確認ドリル〕

〈ポイントA〉
 「まし」「まほし」の接続と活用

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用型
未然形	まほし	まし	まほしか (まほしく) まほしから	まほしく まほしかり	まほし	まほしき まほしかる	まほしけれ まほしかれ	形容詞型
未然形	まし	ましか	○	まし	まし	ましか	○	特殊型

※「まし」の未然形は「ましか」と「ませ」の二通りがあるが、「ませ」は入試古文ではあまり使われない。

〈ポイントB〉
 「まし」の意味

① 反実仮想(「〜ただろうに」)

② 次のような文の構造をとる。

ましかば

せば

まほし。 (もし〜たならば、〜ただろうに。)

未然形十ば

※「せば」の「せ」は過去の助動詞「き」の未然形。

③ ためらいを含む意志(「〜しようかしら」)

④ 「いかに」「なに」「や」「か」など疑問語を伴う。

「まほし」の意味

① 希望(「〜たい」)

① 次の□の中の語を適当な形に活用させよ。

① 花といはば、かくこそにはは まほし。

② 住吉の岸に生ひたる形草見ずやあら まし。

③ うぐひすの声を聞きなば歌をこそは詠ま まし。

④ 行ひもせず死な ましば、恐ろしげなるものの中にもあらまし。

③	①	④	②
---	---	---	---

② 次の空欄に入る正しい語句を一つ選べ。

この帝生まれ□、藤氏の栄えおはしまさざらまし。

イ おはしまさねば ロ おはしまさずは

ハ おはしまさねど ニ おはしましめれど

③ 次の例文を現代語訳せよ。

① 言はまほしきことちえ言はず。

② ものや言ひやらまし。

②	①
---	---



練習問題

長月二十日のころ、ある人に誘はれ奉りて、明くるまで月見ありくことはべ
九月二十日のころ、

りに、思し出づる所ありて、案内せさせて入り給ひぬ。荒れたる庭の露し
取り次ぎ

げきに、わざとならぬ匂ひ、しめやかにうちかをりて、忍びたるけはひ、い

とものあはれなり。

よきほどにて出で給ひぬれど、なほことさまの儀におぼえて、物のかくれ
やはりこの家の様子が見えに思われて、物陰

よりしばし見るたるに、表戸をいまま少しおしあけて、月見るけしきなり。やが
（女が）聞き声をしうくし押し開けて、

てかけこもらましかば、口惜しからまし。あとまで見る人ありとは、いかで

か知らん。かやうのことは、ただ朝夕の心づかひによるべし。その人、ほどな
まもなく

くうせにけりと聞きはべりし。
せくなつてしまつた

「徒然草」

問一 二重傍線部 a、b、c の主題をそれぞれ一つずつ選べ。(同じものを二回以

上使ってよい)

イ ある人(貴人) ロ その人(女) ハ 私(筆者)

a	
b	
c	

問二 傍線部 1、2、3 の助動詞の文法的意味の組合せとして、正しいものを選
べ。

- | | | | |
|---|------|------|------|
| イ | 1 使役 | 2 断定 | 3 推量 |
| ロ | 1 使役 | 2 推定 | 3 当然 |
| ハ | 1 尊敬 | 2 断定 | 3 可能 |
| ニ | 1 尊敬 | 2 推定 | 3 命令 |

問三 波線部について、

(1) 内容の説明として正しいものを一つ選べ。

イ 女がすぐに家の中に入ってしまったわかつたので、その様子に風情
を感じたということ。

ロ 女がただ月を見ていたので、もつと名残を惜しんでほしいと思っ
たということ。

ハ 女がそのまま庭に閉じこもってしまったので、非常に残念だった
ということ。

ニ 女が見られていることをわかつて気取っていたので、興ざめた気
持ちがしたということ。

(2) 末尾の「まし」と異なる用法のものを一つ選べ。

イ 思ひつつ寝ればや人の見えつらん夢と知りせば覚めざらましを

ロ あな恋し行きてや見まし津の国の今もありてふ浦の初鳥

ハ あひ見ずは恋しきこともなからまし音にぞ人を聞くべかりける
ニ 花のごと世の常ならば過ぐしてし昔はまたも帰り来なまし

18 助動詞(十二)「まし」「まほし」「本文解釈と解答」

長月二十日のころ、ある人に誘はれ奉りて、明くるまで月見ありくことはべりし九月二十日のころ、ある人に誘われ申しあげて、夜が明けるとまで月を見てまわったことがありました。思し出づる所ありて、案内せさせて入り給ひぬ。荒れたる庭の露しげきに、わが、(ある人が)思し出しなせる所があつて、取り次ぎをさせてお入りになった。荒れている庭で露がざとならぬ匂ひ、しめやかにうちかをりて、忍びたるけはひ、いともあはれなたくさんある庭に、さりげない香の香りが、しつとりと香って、ひっそりした様子は、たいへんしみじみと趣がある。

よまきほどにて出で給ひぬれど、なほことさまの儀におほえて、物のかくれより(ある人は)遠慮な儀にお出になつたけれど、やはりこの家の様子が優美に思われて、物陰から

しばし見わたるに、妻戸をいまま少しおしあけて、月見るけしきなり。やがてかけこしばらく見ていると、(女が)聞き声をもう少し押し開けて、月を見る様子である。すぐにかきをかけてもらましかば、口惜しからまし。あとまで見る人ありとは、いかでか知らん。かや部屋に入ってしまったならば、残念であつたであらう。後まで見る人がいるとは、どうして知るたもううのことは、ただ朝夕の心づかひによるべし。その人、ほどなくうせにけりとか、いや、知らないであらう。このようなことは、ただ朝夕の心遣いによるのだらう。その人は、まじな

c 聞きは入りし。

『徒然草』

問一 二重傍線部 a~c の主語をそれぞれ一つずつ選べ。(同じものを二回以上使つてよい)

イ ある人(貴人) ロ その人(女) ハ 私(筆者)

a	ハ	b	ロ	c	ハ
---	---	---	---	---	---

[解説]

問一 助動詞の意味にも注意して主語を考える。

a 「誘はれ」の「れ」は、上に「ある人に」があるので、受身。(→1助動詞(五)「る」「らる」(ポイントB)参照)「ある人」に誘われたのは「私(筆者)」。ロの「その人(女)」はまだ登場していないから、正解はハ。

b 「あとまで見る人ありとは、いかでか知らん」を現代語訳すると、「ある人を見送つた後まで、(女を見て)いる人(私)がいる」とは、どうして知るだろうか、いや、知らないだろう」となり、「知る」の主語は「その人(女)」口である。

c 「し」は直接経験を示す過去の助動詞。自分の経験を聞き手に対して説明する地の文であるから、主語は「私(筆者)」ハである。(→7助動詞(二)「き」「けり」(ポイントB)参照)

問二 助動詞の意味の違いを確認する。

- 傍線部「させ」はすぐ下に尊敬語(給ふ・おはします)かないので使役の助動詞。(→12助動詞(六)「す」「さす」「しむ」「ポイントB」参照)
 - 傍線部「なり」は体言「けしき」に接続しているので断定の助動詞。(→16助動詞(十)「なり」「なり」(ポイントA)参照)
 - 傍線部「へし」には意味がいくつもある。「心づかひによるべし」は「その人」が「ある人」を見送つた後にしばらくたつたはずでいたという振る舞いについて述べている部分であり、可能・命令はありえない。「よるだらう」(推量)「よるはずだ(当然)」の訳がふさわしい。
- 1~3のことより、正解はイ。